

# 2023年度 第1四半期 決算説明会

2023年8月7日

**ブラザー工業株式会社**

**常務執行役員財務担当 伊藤 敏宏**

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2023年度 第1四半期（4月-6月）実績

売上収益は、主に為替のプラス影響により前年同期並みとなるものの、  
事業セグメント利益は、販管費・販促費の増加に加え、  
P&H事業、マシナリー事業における売上減にともなう粗利減などにより、減益となる

## ◆ 売上収益 2,004億円/+0.3%（前年同期比）

- ✓ マシナリー事業（産業機器）を中心に市況低迷の影響を受けたものの、為替のプラス影響により前年同期並み

## ◆ 事業セグメント利益 231億円/▲6.7%（前年同期比）

- ✓ P&S事業を中心に物流コスト減少や価格対応の効果があつたものの、P&H事業、マシナリー事業の売上減にともなう粗利減により減益
- ✓ 販管費や販促費の増加などが利益を圧迫

## 2023年度 通期業績予想

為替前提、セグメント内訳も含め、前回予想（2023年5月8日公表）から変更なし

## 2023年度 第1四半期決算

売上収益は、主に為替のプラス影響により前年同期並みとなったものの、  
販管費・販促費の増加に加え、P&H事業、マシナリー事業における売上減にともなう粗利減などにより減益となりました。

## 売上収益

前年同期比 0.3%増の **2,004**億円となりました。

マシナリー事業（産業機器）を中心に市況低迷の影響を受けたものの、  
為替のプラス影響により前年同期並みとなりました。

## 事業セグメント利益

前年同期比 6.7%減の **231**億円となりました。

P&S事業を中心に物流コストの減少や価格対応の効果があつたものの、  
P&H事業、マシナリー事業の売上減にともなう粗利減により減益となりました。  
加えて、販管費や販促費の増加などが利益を圧迫しました。

## 2023年度 通期業績予想

予想期間の事業環境が不透明であるため、現時点では、  
為替前提、セグメント内訳も含め、2023年5月8日に公表した前回予想を据え置きます。

## 2023年度 第1四半期（4月-6月）業績

主に為替のプラス影響により売上収益は前年同期並みとなるものの、  
 販管費・販促費の増加に加え、  
 P&H事業、マシナリー事業における売上減にともなう粗利減などにより、減益となる

単位：億円

	22Q1	23Q1	増減 ( )は為替影響 除く増減	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	1,997	<b>2,004</b>	7 (▲79)	0.3% (▲4.0%)
事業セグメント利益	248	<b>231</b>	▲17 (▲31)	▲6.7% (▲12.4%)
事業セグメント利益率	12.4%	<b>11.5%</b>		
その他の収益・費用	2	<b>▲11</b>	▲13	
営業利益	250	<b>220</b>	▲30	▲12.0%
営業利益率	12.5%	<b>11.0%</b>		
税引前利益	253	<b>227</b>	▲26	▲10.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	174	<b>162</b>	▲11	▲6.6%
USD	129.04	<b>138.11</b>	9.07	
EUR	138.24	<b>150.35</b>	12.11	

2023年度 第1四半期の売上収益は、主に為替のプラス影響により、  
 前年同期比 7 億円増の **2,004 億円** となりました。

一方、利益面では、  
 事業セグメント利益は、 17 億円減の **231 億円**  
 営業利益は、 30 億円減の **220 億円**  
 親会社当期利益は、 11 億円減の **162 億円** となりました。

# 2023年度第1四半期 事業セグメント別実績

単位：億円

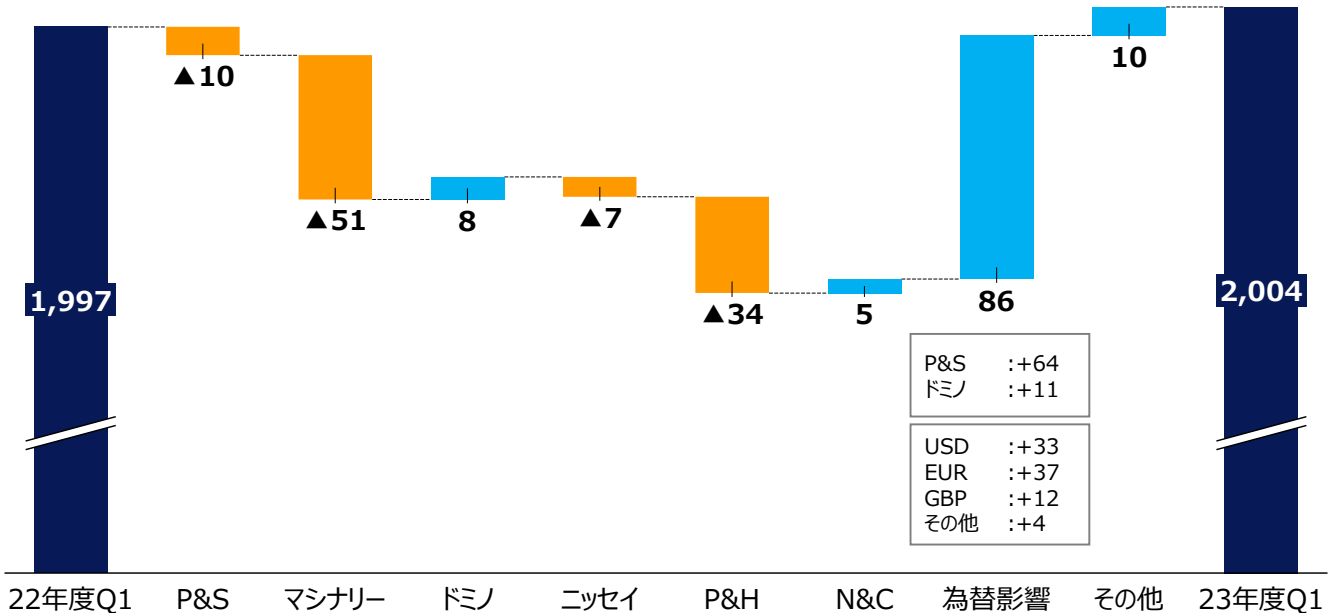
	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	22Q1	23Q1	増減	22Q1	23Q1	増減	22Q1	23Q1	増減
<b>P&amp;S</b>	1,218	1,272	54	179	193	14	169	180	11
マシナリー	234	188	▲47	21	10	▲11	24	12	▲13
ドミノ	237	256	19	16	21	5	20	18	▲2
ニッセイ	60	53	▲7	6	5	▲1	7	5	▲2
P&H	142	115	▲28	20	▲6	▲26	20	▲6	▲26
N&C	84	89	5	3	5	2	7	6	▲1
その他	22	31	10	3	4	1	3	6	3
<b>合計</b>	<b>1,997</b>	<b>2,004</b>	<b>7</b>	<b>248</b>	<b>231</b>	<b>▲17</b>	<b>250</b>	<b>220</b>	<b>▲30</b>

※「その他」にセグメント間取引消去額を含みます

事業セグメントごとの業績一覧です。

マシナリー事業を中心に市況低迷の影響を受けたものの、  
為替のプラス影響により前年同期並みとなる

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2023年度 第1四半期の売上収益の増減要因です。各事業、為替影響を除いた実質ベースの数値です。

・P&S

通信・プリンティング機器、ラベリングともに減収となりました。

・マシナリー

産業機器、工業用マシンともに市況が悪化し、減収となりました。

・ドミノ

C&Mが堅調に推移し、増収となりました。

・ニッセイ

設備投資の先送りにより、減速機・歯車ともに減収となりました。

・P&H

各地域における市況の悪化により、減収となりました。

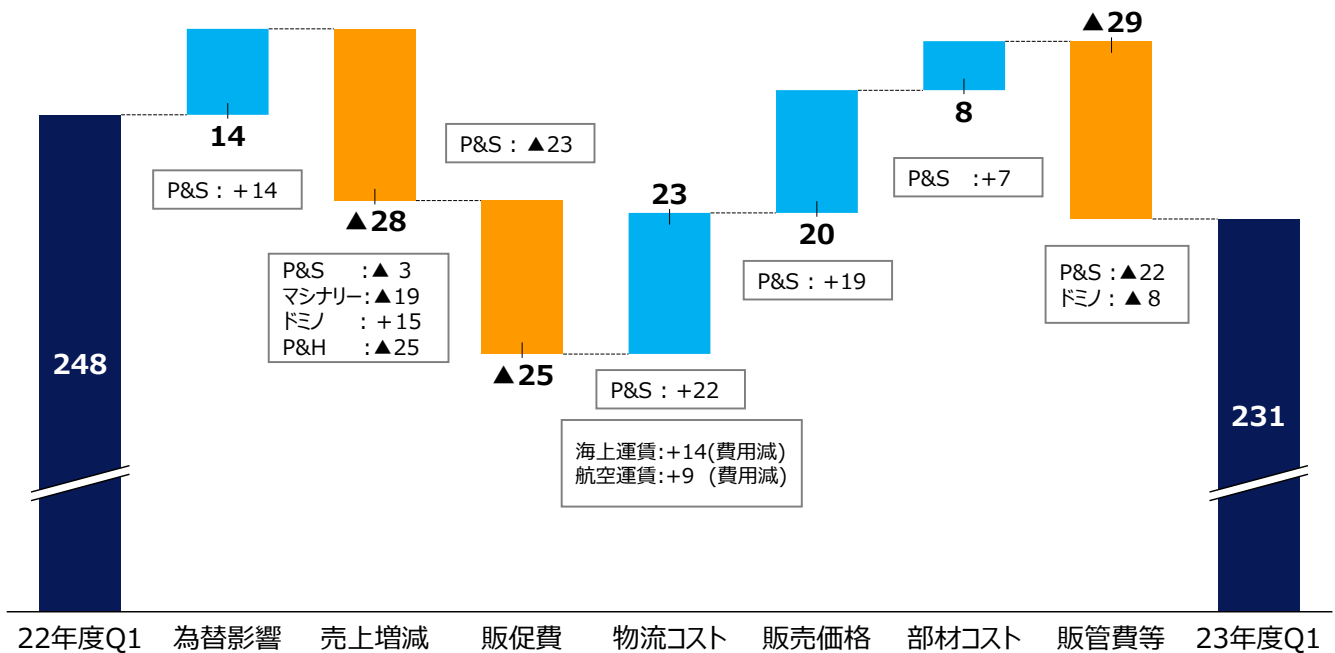
・N&C

新型コロナウイルス感染症の5類移行にともないカラオケ店舗への客足が回復し、増収となりました。

これらに、為替が円安に推移したことによるプラス影響 86 億円が加わり、  
全社では 7 億円増となる **2,004 億円** となりました。

主にP&S事業における物流コスト減少や価格対応の効果があったものの、  
販管費、販促費の増加に加え、  
P&H事業、マシナリー事業における売上減にともなう粗利減などにより減益となる

単位：億円



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

事業セグメント利益の増減要因です。主な要素についてコメントします。

・売上増減

主にP&H事業における中高級機の販売減少による製品ミックスの悪化や、マシナリー事業における産業機器・工業用ミシンの販売減少が影響しました。

・販促費

P&S事業において、各社の供給制約の解消にともない競争環境が戻りつつあることから、増加しました。

・物流コスト

主にP&S事業において、海上運賃の高騰が落ち着いたことなどにより、減少しました。

・販売価格

主にP&S事業において、価格対応の効果などにより、平均単価が上がりました。

・販管費

主にインフレによる人件費などの増加や営業活動の強化により、増加しました。

これらにより、事業セグメント利益は、前年同期比 17億円減の 231 億円となりました。

## 2023年度 通期業績予想



為替前提、セグメント内訳も含め、前回予想から変更なし

	22年度 実績	23年度 予想	増減 ( )は為替影響除く 増減	増減率 ( )は為替影響除く 増減率
売上収益	8,153	<b>8,400</b>	247 (310)	3.0% (3.8%)
事業セグメント利益	604	<b>700</b>	96 (111)	15.9% (18.4%)
事業セグメント利益率	7.4%	<b>8.3%</b>		
その他の収益・費用	▲50	<b>0</b>	50	
営業利益	554	<b>700</b>	146	26.4%
営業利益率	6.8%	<b>8.3%</b>		
税引前利益	570	<b>700</b>	130	22.9%
親会社の所有者に帰属する				
当期利益	391	<b>500</b>	109	27.9%
USD	134.95	<b>135.00</b>	0.05	
EUR	141.24	<b>140.00</b>	▲1.24	

単位：億円

2023年度通期の業績予想については、予想期間の事業環境が不透明であるため、現時点では、為替前提、セグメント内訳も含め、2023年5月8日に公表した前回予想を据え置きます。

[ご参考：2023年5月8日公表の資料より] 前年度比  
売上収益は、247億円増の **8,400** 億円

利益については、  
事業セグメント利益は、96億円増の **700** 億円  
営業利益は、146億円増の **700** 億円  
親会社当期利益は、109億円増の **500** 億円の見込みです。

# 2023年度通期 事業セグメント別予想

単位：億円

	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	22年度 実績	23年度 予想	増減	22年度 実績	23年度 予想	増減	22年度 実績	23年度 予想	増減
P&S	4,967	4,970	3	371	415	44	365	415	50
マシナリー	964	1,156	192	95	148	53	98	148	50
ドミノ	1,008	1,058	50	56	45	▲11	▲58	45	103
ニッセイ	235	242	7	19	21	2	18	21	3
P&H	510	511	1	58	44	▲14	59	44	▲15
N&C	353	375	22	5	9	4	8	9	1
その他	116	88	▲28	1	18	17	64	18	▲46
<b>合計</b>	<b>8,153</b>	<b>8,400</b>	<b>247</b>	<b>604</b>	<b>700</b>	<b>96</b>	<b>554</b>	<b>700</b>	<b>146</b>

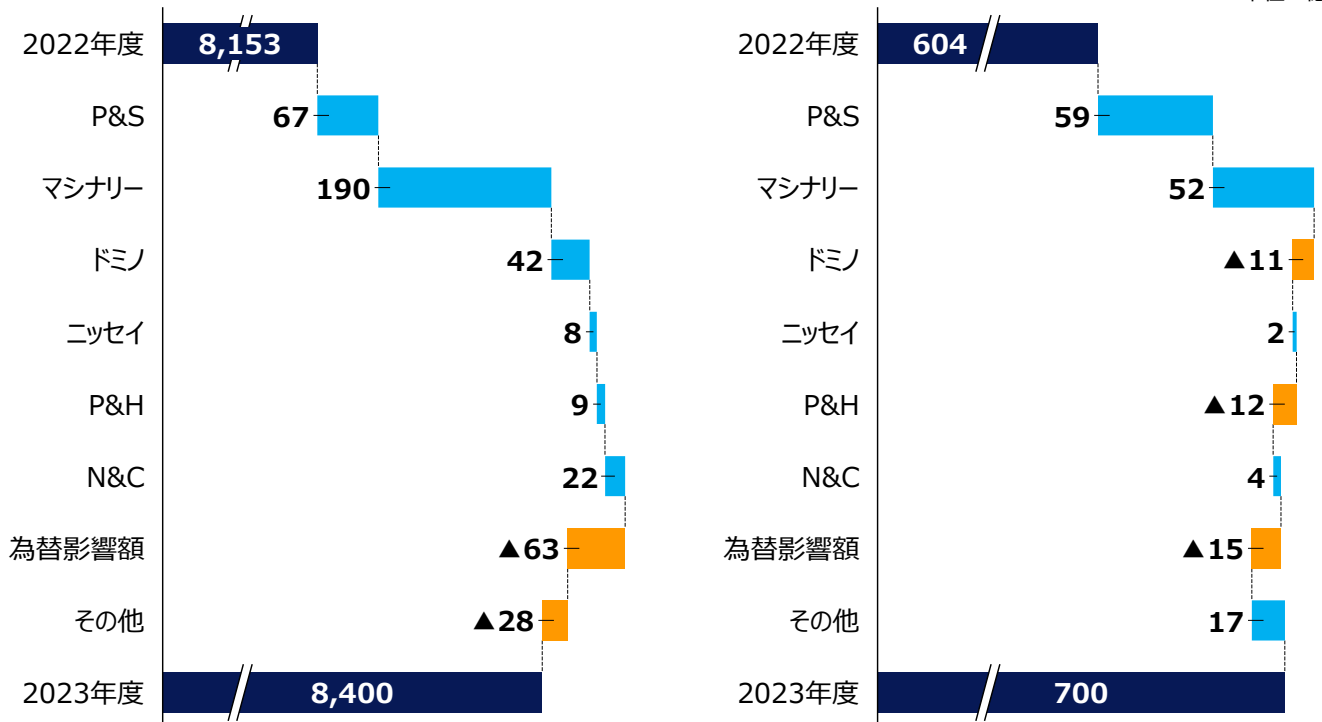
※「その他」にセグメント間取引消去額を含みます

事業セグメントごとの業績予想の一覧です。

売上収益の増減

事業セグメント利益の増減

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

[ご参考：2023年5月8日公表の資料より]

2023年度の売上収益・事業セグメント利益の増減要因（前年度比）です。

・P&S

通信・プリンティング機器において、引き続き製品本体の販売を強化することや、ラベリングにおいて部材不足による供給制約が解消されたことにより増収。利益については、各社の供給能力の回復にともない販促費は増加するものの、海上運賃の大幅改善や米国での物流関連費用が減少することなどを織り込み、増益。

・マシナリー

主に産業機器において、自動車・一般機械市場向けが堅調に推移し、増収増益。

・ドミノ

C&Mを中心に需要は堅調に推移し、増収。利益については、グローバルでの基幹システムの刷新費用、および営業活動強化による販管費の増加などを織り込み、減益。

・ニッセイ

工場における自動化ニーズの高まりにより、設備投資需要が継続し、増収増益。

・P&H

巣ごもり需要は一巡し、売上は前年並み。利益については、中高級機の販売減少にともなう売上構成の変化などにより減益。

・N&C

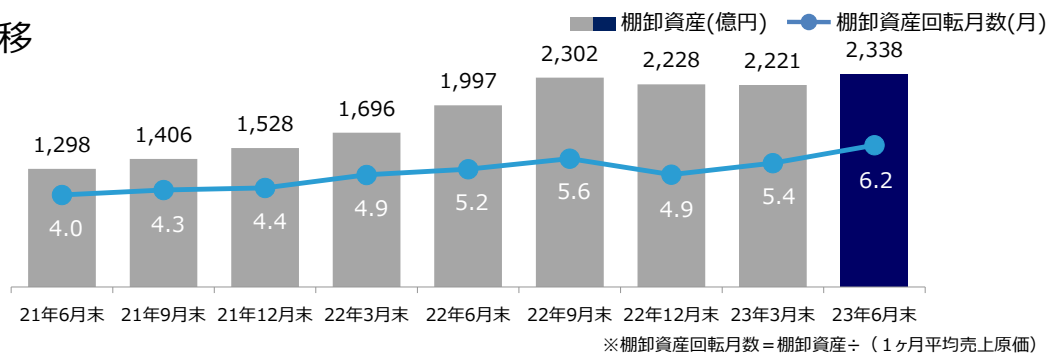
カラオケ需要の回復を見込み、増収増益。

これらの結果、全社では、増収増益を見込んでいます。

	23年3月末	23年6月末	増減
流動資産	5,117	<b>5,163</b>	45
現預金	1,190	<b>1,092</b>	▲98
棚卸資産	2,221	<b>2,338</b>	117
非流動資産	3,387	<b>3,570</b>	183
負債合計	2,538	<b>2,309</b>	▲229
有利子負債	374	<b>232</b>	▲143
株主資本	5,966	<b>6,423</b>	457
総資産	8,505	<b>8,733</b>	228

	23年3月末	23年6月末	増減
ネット・キャッシュ	816	<b>860</b>	44
株主資本比率	70.2%	<b>73.5%</b>	3.4%
ROE	6.8%	-	-

棚卸資産推移

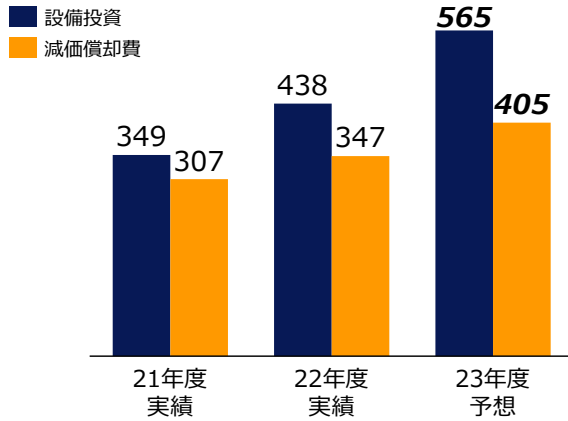


ネットキャッシュは、860億円 となりました。

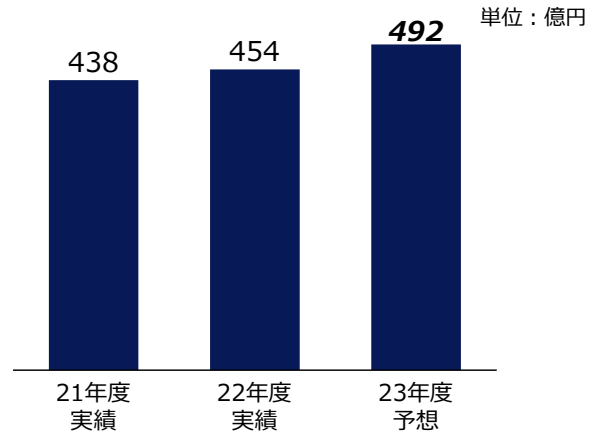
棚卸資産・棚卸資産回転月数ともに、2023年3月末時点から増加していますが、為替影響によるものです。需要に合わせて生産調整を行っており、為替影響を除くといずれも減少しています。

ただ、依然として、P&S事業を中心に在庫水準が高い状態にありますので、引き続き適正化に努めていきます。

設備投資・減価償却費



研究開発費



設備投資内訳

	21年度	22年度	23年度
産業用領域	68	82	122
民生用領域他	281	356	443
計	349	438	565

研究開発費内訳

	21年度	22年度	23年度
産業用領域	103	123	134
民生用領域他	335	331	358
計	438	454	492

\*産業用領域は、マシンリー事業、ドミノ事業、ニッセイ事業の内訳を合算したものです。

2023年度の設備投資、減価償却費、研究開発費についても、前回公表時からの変更はありません。

## セグメント業績概要

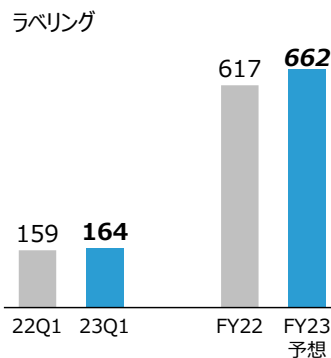
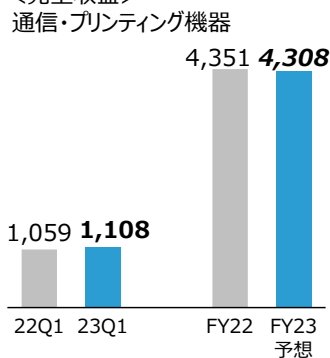
# プリンティング&ソリューションズ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

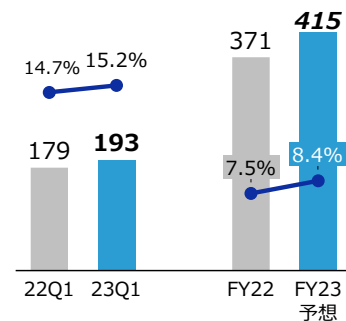
単位：億円

	22Q1	23Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY22	FY23予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>1,218</b>	<b>1,272</b>	<b>4.4%</b>	<b>-0.8%</b>	<b>4,967</b>	<b>4,970</b>	<b>0.1%</b>	<b>1.4%</b>
<b>通信・プリンティング機器</b>	<b>1,059</b>	<b>1,108</b>	<b>4.6%</b>	<b>-0.6%</b>	<b>4,351</b>	<b>4,308</b>	<b>-1.0%</b>	<b>0.3%</b>
米州	403	410	1.9%	-2.8%	1,688	1,695	0.4%	2.3%
欧州	324	360	10.9%	1.6%	1,351	1,308	-3.2%	-2.3%
アジア他	210	238	13.5%	11.5%	847	856	1.0%	2.6%
日本 (OEMを含む)	123	100	-18.2%	-20.0%	464	449	-3.3%	-3.1%
<b>ラベリング</b>	<b>159</b>	<b>164</b>	<b>3.1%</b>	<b>-2.1%</b>	<b>617</b>	<b>662</b>	<b>7.3%</b>	<b>8.5%</b>
米州	82	75	-8.9%	-13.7%	286	309	8.3%	9.9%
欧州	42	49	15.5%	6.1%	186	193	3.7%	4.5%
アジア他	24	29	21.2%	19.9%	98	103	4.6%	6.1%
日本	10	11	5.6%	5.6%	46	56	21.8%	21.8%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>179</b>	<b>193</b>	<b>7.8%</b>	-	<b>371</b>	<b>415</b>	<b>11.9%</b>	-
<b>営業利益</b>	<b>169</b>	<b>180</b>	<b>6.3%</b>	-	<b>365</b>	<b>415</b>	<b>13.8%</b>	-

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

15

P&S事業の第1四半期の売上収益は **1,272** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 0.8% となりました。

## ・通信・プリンティング機器

売上収益は **1,108** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 0.6% となりました。  
詳細は次のページでご説明します。

## ・ラベリング

売上収益は **164** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 2.1% となりました。  
欧州・アジアにおいて堅調に推移したものの、米州において消耗品を中心に需要が低迷しました。  
なお、前年の第2四半期から継続していた部材不足による供給制約は解消しました。

事業セグメント利益は、**193** 億円。

販促費・販管費が増加したものの、  
物流コストの減少や価格対応の効果に加え、為替のプラス影響もあり、増益となりました。

	21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	22Q1	22Q2	22Q3	22Q4	23Q1	23Q2	23Q3	23Q4	21通期	22通期
<b>レーザー (LBP)</b>														
売上伸び率 (円ベース/前年比)														
本体	-10%	-4%	-9%	-8%	41%	45%	42%	36%	4%	-	-	-	-8%	41%
消耗品	21%	15%	14%	16%	18%	-8%	0%	4%	3%	-	-	-	16%	3%
売上伸び率 (現地通貨ベース/前年比)														
本体	-16%	-9%	-15%	-13%	25%	23%	21%	23%	-1%	-	-	-	-13%	23%
消耗品	12%	9%	6%	9%	7%	-20%	-13%	-6%	-3%	-	-	-	9%	-8%
<b>インクジェット (IJP)</b>														
売上伸び率 (円ベース/前年比)														
本体	90%	95%	17%	15%	18%	32%	46%	39%	5%	-	-	-	45%	33%
消耗品	11%	-6%	-3%	2%	19%	-2%	8%	13%	15%	-	-	-	0%	9%
売上伸び率 (現地通貨ベース/前年比)														
本体	79%	87%	11%	10%	8%	16%	30%	27%	2%	-	-	-	38%	20%
消耗品	5%	-10%	-7%	-2%	11%	-12%	-2%	4%	9%	-	-	-	-4%	0%
消耗品比率														
	56%	57%	58%	59%	53%	47%	49%	53%	54%	-	-	-	57%	51%
販売台数伸び率 (前年比)														
レーザー (LBP)	-28%	-16%	-20%	-16%	14%	9%	3%	8%	-1%	-	-	-	-20%	8%
インクジェット (IJP)	65%	101%	1%	7%	8%	16%	42%	43%	4%	-	-	-	34%	26%

© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

16

第1四半期におけるプリンティング主要製品の売上伸び率・構成比についてです。

#### ・売上伸び率 (現地通貨ベース)

レーザーの売上伸び率は、本体は マイナス 1%、消耗品は マイナス 3%、  
インクジェットの売上伸び率は、本体は プラス 2%、消耗品は プラス 9% となりました。

レーザーについては、本体は欧州において堅調に推移したものの、  
中国において販売が減少し、前年同期並みとなりました。  
消耗品は、欧州における値上げ前の駆け込み需要があったものの、主に米州において販売が減少しました。

インクジェットについては、本体の販売は欧米において減少したものの、  
アジアにおいて好調に推移し、対前年で微増となりました。  
消耗品は、欧州における値上げ前の駆け込み需要も含め、グローバルで堅調に推移しました。

#### ・販売台数伸び率

レーザーは、欧州・アジアが堅調に推移したものの、米州において販売が減少し、前年同期並みとなりました。  
インクジェットは、新興国向けのタンクモデルの販売が伸長しました。



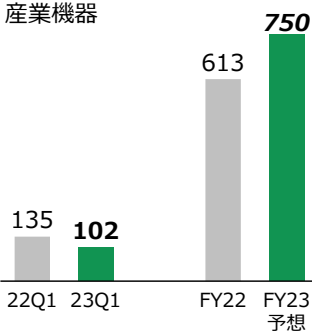
# マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

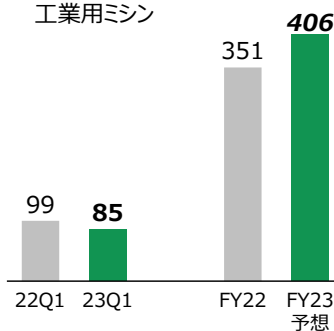
単位：億円

	22Q1	23Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY22	FY23予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>234</b>	<b>188</b>	<b>-19.9%</b>	<b>-21.8%</b>	<b>964</b>	<b>1,156</b>	<b>19.9%</b>	<b>19.8%</b>
<b>産業機器</b>	<b>135</b>	<b>102</b>	<b>-24.5%</b>	<b>-24.6%</b>	<b>613</b>	<b>750</b>	<b>22.4%</b>	<b>21.8%</b>
米州	10	7	-28.5%	-	41	38	-6.0%	-
欧州	12	9	-30.7%	-	38	42	10.5%	-
アジア他	90	67	-25.6%	-	432	534	23.5%	-
日本	24	20	-15.5%	-	103	137	33.1%	-
<b>工業用マシン</b>	<b>99</b>	<b>85</b>	<b>-13.7%</b>	<b>-18.0%</b>	<b>351</b>	<b>406</b>	<b>15.7%</b>	<b>16.2%</b>
米州	27	26	-6.3%	-11.6%	105	121	14.7%	16.1%
欧州	21	22	7.2%	-1.8%	74	85	15.9%	17.1%
アジア他	47	32	-32.4%	-34.4%	155	178	14.8%	14.5%
日本	4	6	48.9%	48.9%	17	22	29.0%	29.0%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>21</b>	<b>10</b>	<b>-54.3%</b>	<b>-</b>	<b>95</b>	<b>148</b>	<b>55.1%</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b>	<b>24</b>	<b>12</b>	<b>-52.4%</b>	<b>-</b>	<b>98</b>	<b>148</b>	<b>50.6%</b>	<b>-</b>

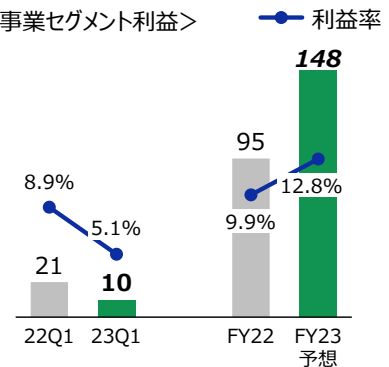
<売上収益>  
産業機器



工業用マシン



<事業セグメント利益>



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

17

マシナリー事業の第1四半期の売上収益は **188** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 21.8% となりました。

## ・産業機器

売上収益は、**102** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 24.6% となりました。  
中国の市況悪化にともない自動車・一般機械市場向けの設備投資需要が低迷し、大幅な減収となりました。

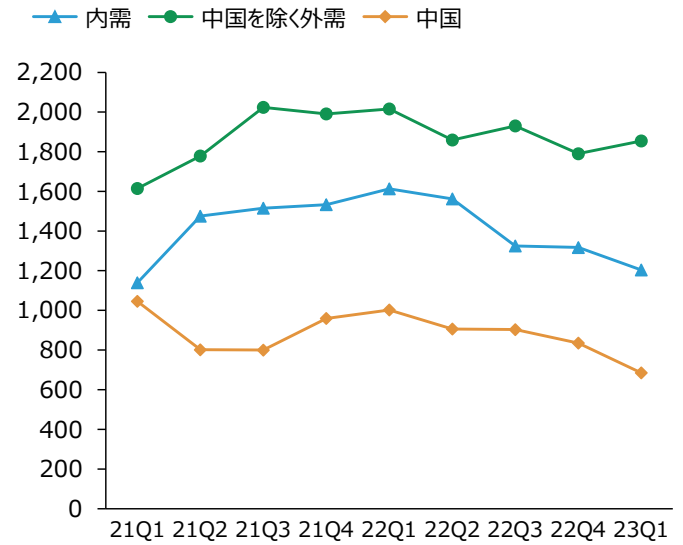
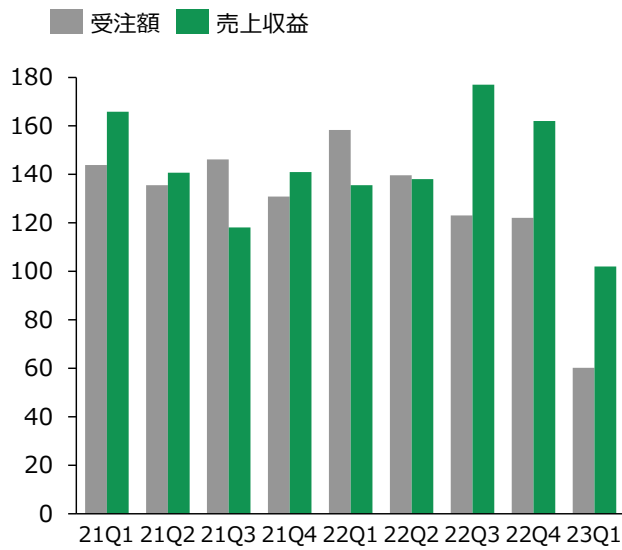
## ・工業用マシン

売上収益は、**85** 億円、現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 18.0% となりました。  
工業用マシンは、アジアのアパレル向け設備投資需要が引き続き低調に推移し、  
堅調だった前年同期と比較して販売が大幅に減少しました。  
一方で、ガーメントプリンターは、市況が回復し販売が堅調に推移しました。  
全体では、為替のプラス影響があったものの、減収となりました。

事業セグメント利益は、**10** 億円。  
為替のプラス影響があったものの、減収により、大幅な減益となりました。

受注額・売上収益の推移

（参考）日工会受注統計



※国内・海外の製品本体の受注額合計  
海外受注額は各四半期の為替レートにて円換算

※出所：（一社）日本工作機械工業会 工作機械主要統計より

四半期ごとの売上収益と受注額です。  
受注額は、国内受注と海外受注を合わせた製品本体受注の合計額です。

2023年度第1四半期は、中国の市況悪化にともない受注が大幅に減少しました。

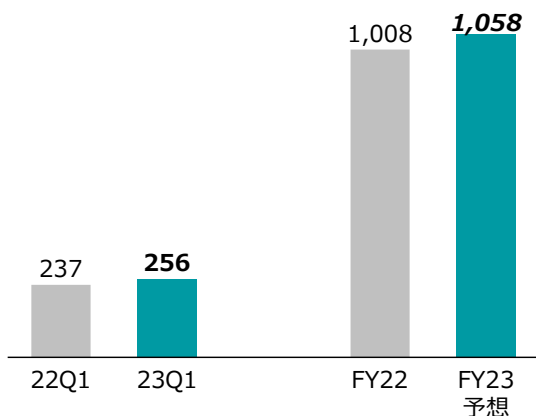
# ドミノ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

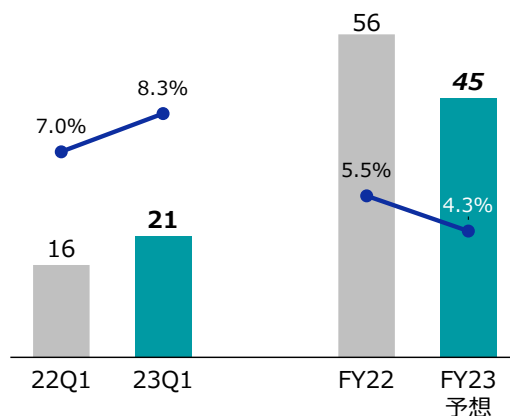
単位：億円

	22Q1	23Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY22	FY23予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>237</b>	<b>256</b>	<b>7.9%</b>	<b>3.4%</b>	<b>1,008</b>	<b>1,058</b>	<b>4.9%</b>	<b>8.7%</b>
米州	57	64	11.9%	-1.6%	243	271	11.8%	17.9%
欧州	97	113	15.9%	13.2%	437	437	0.2%	1.8%
アジア他	73	70	-4.5%	-5.2%	288	306	6.5%	11.9%
日本	10	10	-1.0%	-1.0%	41	43	4.1%	4.1%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>16</b>	<b>21</b>	<b>28.6%</b>	-	<b>56</b>	<b>45</b>	<b>-19.3%</b>	-
<b>営業利益</b>	<b>20</b>	<b>18</b>	<b>-10.8%</b>	-	<b>-58</b>	<b>45</b>	-	-

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

19

ドミノ事業の第1四半期の売上収益は **256** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 3.4%となりました。

製品本体は、C&M\*が堅調に推移しました。  
消耗品についてはC&M・DP\*ともに引き続き堅調に推移しています。

事業セグメント利益は、**21** 億円。  
営業活動の強化にともない販管費が増加したものの、増収効果や製品ミックスの変化などにより増益となりました。

営業利益は、為替差損により **18**億円 となりました。

\* C&M : コーディング・マーキング機器、 DP : デジタル印刷機

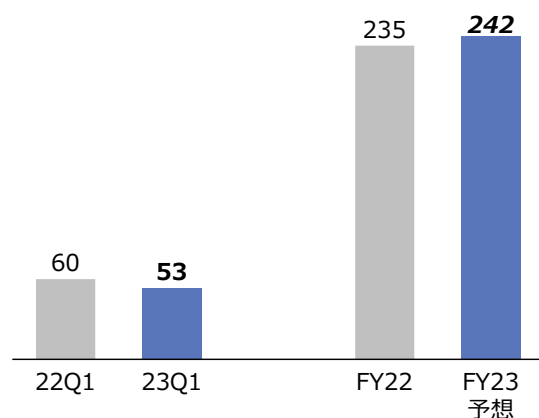
# ニッセイ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

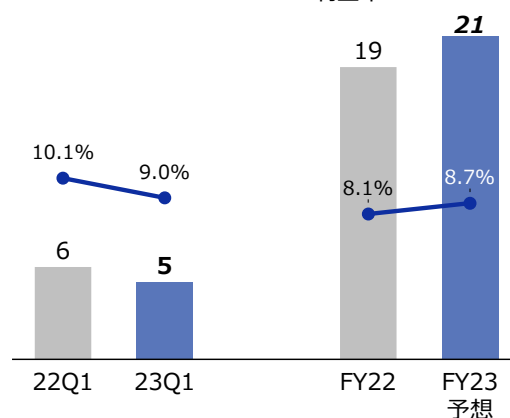
単位：億円

	22Q1	23Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY22	FY23予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>60</b>	<b>53</b>	<b>-11.2%</b>	<b>-12.3%</b>	<b>235</b>	<b>242</b>	<b>3.1%</b>	<b>3.3%</b>
米州	10	8	-18.6%	-24.0%	38	38	-0.8%	-0.4%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	10	11	11.8%	10.5%	37	38	1.3%	2.5%
日本	41	35	-14.9%	-14.9%	160	167	4.4%	4.4%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>-21.1%</b>	<b>-</b>	<b>19</b>	<b>21</b>	<b>10.5%</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>-27.3%</b>	<b>-</b>	<b>18</b>	<b>21</b>	<b>16.0%</b>	<b>-</b>

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

20

ニッセイ事業の第1四半期の売上収益は **53** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 12.3% となりました。

主に中国の景況感悪化を受けた設備投資の先送りにより、減速機・歯車ともに販売が低調に推移し、減収となりました。

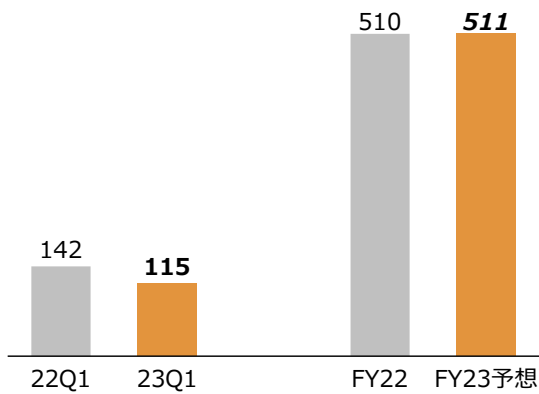
事業セグメント利益は、**5** 億円。  
減収により、減益となりました。

パーソナル&ホーム事業  
売上収益・事業セグメント利益・営業利益

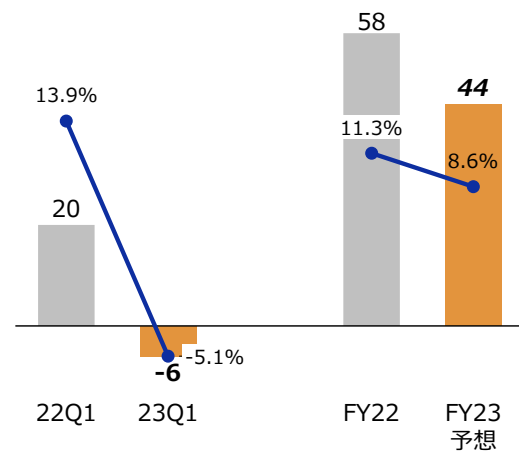
単位：億円

	22Q1	23Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY22	FY23予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>142</b>	<b>115</b>	<b>-19.4%</b>	<b>-23.8%</b>	<b>510</b>	<b>511</b>	<b>0.2%</b>	<b>1.8%</b>
米州	85	69	-18.0%	-22.5%	316	311	-1.7%	0.0%
欧州	35	28	-21.4%	-28.1%	112	113	0.1%	1.2%
アジア他	14	13	-9.8%	-10.9%	52	56	8.1%	10.4%
日本	8	5	-41.6%	-41.6%	29	31	7.9%	7.9%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>20</b>	<b>-6</b>	-	-	<b>58</b>	<b>44</b>	<b>-23.9%</b>	-
<b>営業利益</b>	<b>20</b>	<b>-6</b>	-	-	<b>59</b>	<b>44</b>	<b>-24.8%</b>	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



P&H事業の第1四半期の売上収益は **115** 億円、  
現地通貨ベースの伸び率では、マイナス 23.8% となりました。

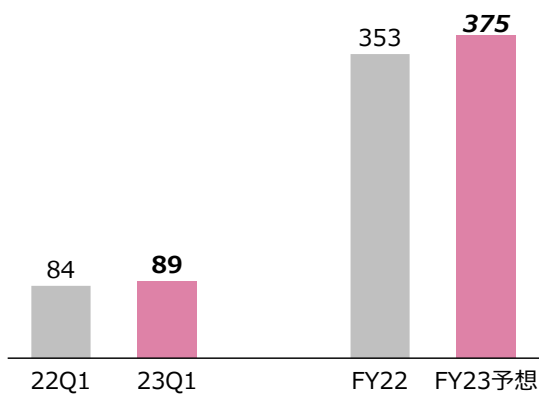
各地域における市況の悪化により、主に中高級機の販売が減少し、減収となりました。

事業セグメント利益は、**6** 億円の赤字となりました。  
中高級機の販売減少による製品ミックスの悪化や販促費の増加などが影響しました。

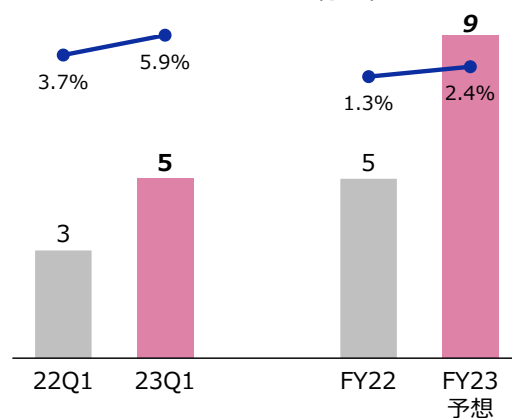
単位：億円

	22Q1	23Q1	増減率	FY22	FY23予想	対前年増減率
売上収益	84	89	6.4%	353	375	6.4%
事業セグメント利益	3	5	70.9%	5	9	98.1%
営業利益	7	6	-10.2%	8	9	10.4%

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



N&C事業の第1四半期の売上収益は **89** 億円。  
前年同期比 プラス 6.4%となりました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない客足が回復し、  
カラオケ店舗の売上が増加し、増収となりました。

事業セグメント利益は、**5** 億円 となりました。  
増収により、増益となりました。

営業利益は、時短協力金や雇用調整助成金などの給付金がなくなりました。

## ESGトピックス

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズに初選定  
これにより、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が採用する  
6つのESG国内投資指数すべてに選定

GPIFが採用するESG国内投資指数

(2023年8月現在)

・MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数：初選定

2023 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数

- ・FTSE Blossom Japan Index：2020年から選定
- ・FTSE Blossom Japan Sector Relative Index：2022年から選定
- ・MSCI日本株女性活躍指数(WIN)：2019年から選定
- ・Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index：2022年から選定
- ・S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数：2018年から選定



FTSE Blossom  
Japan



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

2023 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



DISCLAIMER

THE INCLUSION OF BROTHER INDUSTRIES, LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF BROTHER INDUSTRIES, LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

外部からの評価についてです。

このたび、ブラザー工業は、ESG対応に優れた日本企業を選定する投資指数である「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」に初めて選定されました。

これにより、GPIFが採用する6つのESG国内投資指数の全てに選定されたこととなります。



ブラザーインダストリーズ(スロバキア)で生産するリサイクルトナーカートリッジが  
世界で初めてドイツの環境ラベル ブルーエンジェル認証\*を取得



Remanufactured toner cartridges and ink cartridges for printers, copiers and multifunction devices

DE-UZ 177



ブラザーインダストリーズ(スロバキア)

<これまでの取り組み>

- 2001年 レーザープリンターでブルーエンジェル認証を取得
- 2004年 英国でトナーカートリッジのリサイクルを開始。その後スロバキア・米国・日本の工場でも実施
- 2008年 インクジェット複合機で世界初のブルーエンジェル認証を取得

ブラザーインダストリーズ(スロバキア)で生産するリサイクルトナーカートリッジ「TN-3512 RE」が、  
リサイクルトナーカートリッジ分野では世界初となるブルーエンジェル認証を取得

\*ブルーエンジェル認証：

環境問題の解決を図ると同時に、環境保全型商品の開発や、販売を促進することを目的として、1978年にドイツで誕生した世界で最初の環境ラベル。今回、認証を取得したのは、プリンター・複合機などのリサイクルトナーカートリッジおよびインクカートリッジに適用される基準（DE-UZ 177）

ブルーエンジェルは、環境問題の解決を図ると同時に、環境保全型商品の開発や、販売を促進することを目的として、1978年にドイツで誕生した世界で最初の環境ラベルです。

ブラザーグループでは、2001年にレーザープリンタでブルーエンジェル認証を取得、2008年にはインクジェット複合機で世界初の認証を得るなど、さまざまな製品において取得を進めてきました。

消耗品のリサイクル業務を担う製造子会社のブラザーインダストリーズ(スロバキア)では、リサイクルトナーカートリッジの認証取得に向け活動を進め、このたび「TN-3512 RE」がリサイクルトナーカートリッジとしては世界初のブルーエンジェル認証\*を取得しました。

\*プリンター、複合機などのリサイクルトナーカートリッジおよびインクカートリッジに適用される基準（DE-UZ 177）

**brother**  
at your side

ビジネス領域		事業		分野（主な製品・サービス群）		
産業用領域	マシナリー・FA領域	マシナリー	ニッセイ	減速機 歯車	工作機械	工業用ミシン
	産業用印刷領域		産業機器			
		ドミノ	ガーメントプリンター	コーティング・マーキング機器	デジタル印刷機	
民生用領域	プリンティング領域	P&S (プリンティング&ソリューションズ)	ラベリング	業務用ラベルプリンター	モバイルプリンター	ラベルライター
	ホーム・カルチャー領域		業務用ラベリング			
		汎用ラベリング	通信・プリンティング	家庭用ミシン	カッティングマシン	通信カラオケ機器
			P&H (パーソナル&ホーム)			
			N&C (ネットワーク&コンテンツ)			